

習志野市教育委員会会議録

(令和8年第6回定例会)

1 期 日	令和8年6月24日(水)		
	市庁舎3階大会議室		
	開会時刻	午後3時00分	
	閉会時刻	午後4時37分	
2 出席委員	教 育 長	小 熊 隆	
	委 員	高 橋 浩 之	
	委 員	馬 場 祐 美	
	委 員	鎌 田 尊 人	
	委 員	竹 谷 嘉 夫	
3 出席職員	学校教育部長	上 原 香	
	生涯学習部長	海老原 智 実	
	学校教育部参事	佐々木 博 文	
	学校教育部次長	大 竹 博 和	
	生涯学習部次長	川 窪 一 就	
	学校教育部副参事	志 摩 豊	
	教育総務課長	中 野 充	
	学校教育課長	奥 秋 裕 司	
	児童生徒指導課長	櫻 井 智 之	
	学習指導課長	田 中 紀代美	
	総合教育センター所長	青 野 孝 幸	
	社会教育課長	河 栗 太 一	
	中央公民館長	安 達 幸 希	
	菊田公民館長	妹 川 智 子	
	学校教育部主幹	石 井 義 之	
	学校教育部主幹	西 川 彰	
	学校教育部主幹(習志野高等学校事務長)	袴 田 武 志	
	学校教育部主幹	鈴 木 貴 幸	
	学校教育部主幹	新 井 理 香	
	学校教育部主幹	鶴 岡 佑 介	
	学校教育課主任管理主事	伊 藤 将 啓	
	児童生徒指導課主任指導主事	渡 辺 明日子	
	学習指導課主任指導主事	坂 井 祐 介	

4 議題

第1 前回会議録の承認

第2 報告事項

- (1) 令和8年度習志野市学校教育指導重点事項について
- (2) 令和8年度学校基本調査の結果について
- (3) 教育委員会における AI 型教材導入に関する取組状況について
- (4) 菊田公民館の今後について
- (5) いじめ重大事態の発生について

第3 議決事項

議案第27号 習志野市教育委員会が行う聴聞及び弁明の機会の付与に関する規則の一部を改正する規則の制定について

議案第28号 習志野市教育委員会6級以上の職員の任免について

第4 協議事項

協議第1号 習志野高等学校魅力度向上に関するアンケートの実施について

協議第2号 次回教育委員会定例会の期日について

第5 その他

5 会議内容

小熊教育長

令和8年習志野市教育委員会第6回定例会の開会を宣言。

小熊教育長

本会議の審議を傍聴したい旨の申し出が4名からあり、傍聴券を交付した旨を報告した。

また、習志野市教育委員会傍聴人規則に定めのある定員10名を超える今後の傍聴の申し出について、受け入れが可能な範囲で受け入れることについて報告した。

小熊教育長

議案第28号を議事に追加することについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

小熊教育長

会議規則第13条の規定により、報告事項(5)及び議案第28号を非公開とすることについて諮り、全員異議なく提案どおり決定された。

小熊教育長

令和8年第5回定例会の会議録について承認を求め、承認された。

報告事項(1) 令和8年度習志野市学校教育指導重点事項について

(学校教育課・児童生徒指導課・学習指導課・総合教育センター)

田中学校指導課長

報告事項(1)「令和8年度習志野市学校教育指導重点事項について」、各課を代表して説明す

る。

スライド番号2番を御覧いただきたい。令和8年度 of 教育行政方針においては、つながりが未来を創る習志野の教育をテーマとして掲げている。この実現に向け、共通の方向性の下で取組を進めていく。令和8年度の各課の指導重点事項のテーマは、それぞれ独立した取組ではなく、相互に関連しながら子どもたちの学びと成長を支えるものとなっている。

スライド番号3番を御覧いただきたい。学習指導課の習志野学びモデルである。1つ目は、見通しである。学習の目当てや授業の流れ、評価の観点を明確にし、子どもたちが安心して学べる環境を整えていく。2つ目は、学びへの参加である。課題や表現方法に選択肢を設ける、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮を行った特別支援教育の充実など、一人一人に応じた学びを推進していく。3つ目は、相互作用である。対話や協働的な活動を通して、多様な考えに触れながら学びを深めていく。4つ目は、自己調整である。振り返りや自己決定の機会を確保し、自ら学び方を選択できる力を育成していく。これら4つの視点を通して、主体的に学習に取り組む態度、自己有用感の向上を目指していく。

スライド番号4番を御覧いただきたい。児童生徒指導課の習志野生徒指導向上パッケージである。1つ目は、未然防止である。安心できる学級づくりや、いじめ防止教育の充実を図っていく。2つ目は、早期発見である。チェックリストの活用や事例研修を通して、小さな変化を見逃さない体制づくりを進めていく。3つ目は、早期対応である。いじめ対応フローの徹底や指導主事の迅速な支援により、組織的な対応を強化していく。4つ目は、困難事例対応である。法務相談やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の関係機関と連携しながら、ためらわずに動く体制を強化し、対応していく。これら4つの視点を通して、エンゲージメントで育む児童生徒の安心と成長を目指していく。

スライド番号5番を御覧いただきたい。学校教育課の習志野教員資質向上スクエアである。1つ目は、使命感向上である。教育の目的を再確認し、学校全体で方向性を共有し、教職員が安心して力を発揮できる環境づくりを行う。2つ目は、安全安心な環境である。学校における様々な死角を把握し、心理的安全性の向上に努める。また、各種対応マニュアルの整備・確認を通して、適切な助言や支援が行える体制づくりを進めていく。3つ目は、健康推進である。健康教育や健康診断、関係機関との連携などを通して、児童生徒の健康増進を図っていく。また、教職員の業務量の管理、児童生徒への安全でおいしい給食の提供、食育の推進など、心身ともに健康に過ごせる環境づくりを進めていく。4つ目は、初期対応の迅速化である。「あつめる、あてる、あたる」を合言葉に情報収集と役割分担、迅速な対応を徹底する。また、スクールカウンセラーやスクールロイヤーなどの第三者や他機関とのつながりの中で対応をしていく。これら4つの視点を通して、信頼され、笑顔と活気あふれる学校づくりを進めていく。

スライド番号6番を御覧いただきたい。総合教育センターの習志野サポートラインである。1つ目は、教育相談である。学校との連携、保護者との連携、関係機関との連携を強化し、切れ目のない支援体制を構築していく。2つ目は、DX向上・初期層教職員のスキル向上である。ICT活用やDX推進を支援するとともに、初若年教職員の育成にも力を入れていく。AI型デジタルドリルや授業支援システムの活用支援、タブレット活用の日常化などを通して、教育の質の向上を図っていく。これら2つの視点を通して、つながりを大切に、情報活用能力、スキル向上を進めていく。

スライド番号7番、8番を御覧いただきたい。ここまでご説明した4つの重点事項は、それぞれが独立しているわけではなく、4つの重点事項をあわせて習志野市学校教育指導重点事項となるものである。子どもたちの学びを中心に据えながら、学校、家庭、地域、関係機関が連携し、支え合う教育を推進していく。

スライド番号9番を御覧いただきたい。なお、この4つの指導重点事項を合わせたとき、その背景もつながりを持たせている。合わせると一つの大きな木となり、この姿は4つの指導重点事項が一体となって教育を支える姿を表している。根を張り、幹を育て、枝葉を広げるように、子どもたち

の成長とよりよい学校運営の実現を目指していく。

以上が習志野市学校教育指導重点事項についての報告である、と概要を説明。

馬場委員

去年、この指導重点事項を報告いただいたときに、非常に分かりづらいのではないかと申し上げたが、そこから比べると、ぱっと見は分かりやすくなったという印象がある。一つ一つの項目数自体は去年とそう変わらないので、目指すべきところは常に一緒であるとも認識した。

また、教育長が去年、各課の連携もやはり大事だとおっしゃっていたことを大分意識されているのかなと思う。今、説明があったように各課の連携が非常に大事だと思うし、学校を支えていくという教育委員会の姿勢も大事だと思うので、頑張って取り組んでいただきたい。

質問は、学校教育課の指導重点事項において、教職員の使命感向上という項目の中に存在の承認とあり、そこには同僚や管理職からの好意的な評価というのがあるが、何か具体的な他者評価の取組が、今現在であるか、と質問。

奥秋学校教育課長

まずは教員のモチベーションを上げるために、自己有用感等々を上げていく必要があると考えている。その中で自分自身の存在を認めてもらうことは非常に重要なことであると思っている。ついでに、5月から6月にかけて行われる人事評価等を用いて、管理職等々の面接を通しながら、目標を定め、それを認めていくという方法を具体策として考えている、と回答。

馬場委員

管理職からの、ということだが、同僚間で、あるいは先生同士でというのはあるか、と質問。

奥秋学校教育課長

先生同士でということについては、学校独自のモラルアップや、独自の会議の持ち方いうところで繋がりを深めていければと考えている、と回答。

馬場委員

私が勤めている会社で、社員同士でありがとうを伝え合おうとか、感謝の心を持ってといった取組が6月ぐらいからちょうど始まった。端末を使って、お互いにメッセージを送り合ったり、簡単にスタンプを送り合ったりということが出来る仕組みになっていて非常に気楽——気楽と言うのもあれだが、取り組みがしやすくなっている。そういうものをもらって、自分がやっている仕事に対して皆認めてくれているのだなという嬉しい気持ちになったり、仕事を頑張ろうと思ったりする実感がある。

先生同士でそういったことができると、先ほどおっしゃった自己有用感や自己肯定感といった部分が上がって、先生たちのやる気にも繋がる。そして、前に申し上げたが、先生たちが頑張っている姿を子どもたちが見ることによって、いいサイクルが生まれると思っている。

管理職からだけではなく、先生同士でそういう努力を認め合えるようなシステムがあるといいと思うので、今すぐにそういうシステムを作るのは難しいだろうが、何か考えていただきたい、と要望。

奥秋学校教育課長

今学校現場にはMicrosoft Teams等々で会議資料を上げたり、または教材研究等で有効なもの、こういうのを使ってみただけでもこういう結果だったという報告をしたり、独自で発信して、それに対して回答するというのもしている実態があるので、そういった中でお互いに高め合い、そ

れが存在を認めることにもなっていくかと思っている。

もう一つは、教室でこもるのではなく、職員室に皆で集まって仕事をする中で、話をしていく、つぶやくことで誰かが拾ってくれる、そうやってコミュニケーションをとっていくということも徐々に広がっているところではある、と回答。

馬場委員

非常にいい取組かと思うので、引き続きお願いしたい。また、いろいろな方策を模索していただきたい、と要望。

竹谷委員

とてもいいことがたくさん書いてあると思うが、これをどう具体的に現場に落とし込んでいくかという行動プランみたいものは、この重点事項の下にあるのか、と質問。

田中学習指導課長

7月の校長会議で、今のような説明をし、この資料を各学校に配布する予定である、と回答。

竹谷委員

配布するのはいいが、先ほど馬場委員が言われたような先生同士のコミュニケーションのために、具体的な方法がどれだけできるかによって、本当の意味での目標達成がされると私は考えている。掲げた目標が「お題目」になってしまっただけではいけないので、小さな行動でも構わないから具体的にこんなことをやったらいいのではないかというものを、各学校で考えて出してもらおうといったことをしているか、と質問。

田中学習指導課長

それぞれの課において、学校に訪問したときに、この指針をもとに、指導助言をしていく予定である、と回答。

竹谷委員

具体的に学校の先生方が考えて、我々の学校ではこういうことを具体的にやっていこうとなっているわけではなく、教育委員会の方で指導をしているという程度であるのか、と質問。

田中学習指導課長

まずこちらからお示しをして、各学校へ訪問したときに好事例を吸い上げたり、こちらからまた提案をしたりして、よりよい学校運営の一助になるように活動を続けていく予定である、と回答。

竹谷委員

ぜひともやっていただきたいのは、各学校の先生方に、この条項についてはこういう形で行動しようというものを具体的に挙げてもらうことである。3つも4つも挙げればいいが、1つでもいいし、小さなことでもいい。そういったものを学校同士で共有してもらい、教育委員会でも共有する。例えば、先生方の自己有用感を高めるという意味で、頑張っていますねという挨拶だけでも気持ちが上がらと思う。そういう小さなことの積み重ねが非常に重要かと思うので、ぜひそういう取組をしていただければと思う、と要望。

小熊教育長

2人の委員から御指摘のあったモラルアップ、これに関するような研修の場が学校現場には

あるので、そういった研修の中で、教職員の中から出して行って、より具現化していくということをし
っかりとやってかなければいけないと思っている、と発言。

鎌田委員

児童生徒指導課の指導重点事項のうち、いじめの問題、未然防止についてであるが、いじめは
よくないという教育はもちろん良いが、例えば、いじめられるほうへのアプローチについて何か考
えているか。例えば、社会に出るといじめはある。いじめられにくいような、いじめに対して強くなる
という方向性で考えることも良いかと思っているがどうか、と質問。

櫻井児童生徒指導課長

本課では教科の指導として道徳科を担当しているが、いじめられる云々よりも、しなやかな心と
いうか、何か困難な状況になったときにしなやかにそれを乗り越える力というものを、道徳教育を
通じて育てていく必要があると考えている。

児童生徒指導課では、レジリエンス——「ネガティブの沼」にはまったときに、どのように自分の
強みを見つけ、それをもとに乗り越えていくか、そういったことに関し指導主事間で勉強し、道徳の
要請訪問等において先生方にお伝えできるように準備を進めているところである。

いじめに限らず不登校についても、そういうしなやかに乗り越える力がとても大事だと思ってい
るので、我々児童生徒指導課から、学校にしっかりと発信できるように準備していきたい、と回答。

鎌田委員

自己有用感も大事なことであるかと思う。ぜひともそちらも進めていただきたい、と要望。

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項(1)は終了した。

報告事項(2) 令和8年度学校基本調査の結果について

(学校教育課)

奥秋学校教育課長

報告事項(2)「令和8年度学校基本調査の結果について」、説明する。

学校基本調査は、学校教育行政に必要な基本事項を明らかにすることを目的とした基幹統計
調査であり、5月1日を基準日として、文部科学省が毎年実施しているものである。

スライド番号1番を御覧いただきたい。小中学校における1学級当たりの児童生徒数について
説明する。小学校では全学年、1学級当たりの最大人数は35人になっている。中学校1年生では、
小学校同様、1学級当たりの最大人数は35人となっている。中学校2、3年生については、1学級
当たりの最大人数は40人になっているが、弾力化を用いて38人で学級を開設することが可能と
なっている。来年度は中学校2年生が35人、再来年度は中学校3年生が35人となり、全ての義
務教育学校で35人学級という計画になっている。

スライド番号2番を御覧いただきたい。幼稚園、こども園について説明する。まずはお手元の資
料の訂正をさせていただきたい。新習志野こども園の令和8年度のクラス数が4となっているが、
正しくは3である。また、向山こども園の令和8年度のクラス数が4となっているが、正しくは6であ
る。これに伴い、令和8年度の合計数が37となっているが、正しくは38である。お詫びして訂正さ
せていただきたい。表にあるように、幼稚園、こども園は全体的に園児数が減少傾向にあるが、向
山こども園・藤崎こども園は増加している。

スライド番号3番を御覧いただきたい。小学校の通常の学級について説明する。昨年度と比較
して大きく減っているのは、大久保小学校と東習志野小学校の41名減、次いで屋敷小学校の35

名減、実花小学校の31名減となっている。またこの4校に限らず、今年度は市内16校のうち12校で人数減となっている。

スライド番号4番を御覧いただきたい。小学校の特別支援学級の児童数について説明する。学級数では変動はないが、児童数は20名増となっていて、16校中7校で児童数が増となっている。

スライド番号5番を御覧いただきたい。小学生全体の児童数・学級数の推移について説明する。令和5年度までは9,000人台が維持されていたが、今年度は8,546人となった。今後の推計については、小学校は減少傾向にあり、令和11年度には8,000人を下回る予測である。それ以降も、大幅な人数減が見込まれており、全国的な少子化の動きが本市でも見られる。また、これらの推計は、今後の鷺沼地区の開発によって値が変わってくるものと思われる。

スライド番号6番を御覧いただきたい。中学校の学校別の生徒数について説明する。昨年度と比較して最も減っているのは第五中学校の28名減で、最も増えているのは第一中学校の76名増である。令和7年度版小中学校児童生徒数及び学級数推計によると、第一中学校は今後令和11年まで増えると予測されていて、生徒数では973名となると予測されている。

スライド番号7番を御覧いただきたい。続いて、中学校の特別支援学級の生徒数について報告いたします。7校中5校で生徒数が増えている状況である。特別支援学級は、この過去5年間でも増える傾向にある。小中学校ともに特別支援学級の児童生徒が増えていて、特に情緒学級のニーズが高い状況となっている。

スライド番号8番を御覧いただきたい。続いて中学校全体の生徒数、学級数の推移である。中学校については、学級数に変動はあるものの、生徒数令和5年度から多少の増加がみられる。今後の推計について、生徒数は令和10年度までゆるやかに増加する見込みであるが、その年を境に減少していくことが見込まれている。また、この推計は、小学校で説明したことと同様に、今後の鷺沼地区の開発によって数値が変わってくるものと思われる。

スライド番号9番を御覧いただきたい。習志野市立の幼稚園、こども園、小中学校の教職員数について説明する。小学校の教員数は、全学年35人学級になったこと、さらに、理科専科、家庭科専科、少人数指導といった担任ではない役割をいただいている教員を配置しているため、増加傾向にある。中学校の教員数は、中学校1年生で35人学級が実施されていることにより、人数が増えていると捉えている。

以上が学校基本調査についての報告である、と概要を説明。

小熊教育長が質疑なしと認め、報告事項(2)は終了した。

報告事項(3) 教育委員会におけるAI型教材導入に関する取組状況について（学習指導課）

田中学習指導課長

報告事項(3)「教育委員会におけるAI型教材導入に関する取組状況について」、説明する。

スライド番号2番を御覧いただきたい。4月から副教材在り方検討委員会、作業部会を立ち上げ、AI型教材の効果的な活用についての検証及び副教材の精査を進めているところである。今回の副教材在り方検討委員会では、習志野市PTA連絡協議会から推薦していただいた2名の委員からも保護者の視点から御意見をいただく予定である。

スライド番号3番から5番を御覧いただきたい、AI型教材導入の目的は、児童生徒一人一人の特性や学習の到達度に応じた学びの実現、児童生徒が主体となった学びの推進を実現するためである。自動採点や学習履歴の即時集計により削減された時間は、こどもたちへの個別支援や授業改善といった、こどもたちと向き合う時間等に転換していく。

スライド番号6番を御覧いただきたい。本市が特に重視していることが、AI型ドリルとノートの併

用である。全てをデジタル化するわけではなく、これまでと同様に紙のノートの活用とAI型教材を併用した学習により紙に書く機会を確保しつつ、デジタルのメリットを活かしながら、児童生徒一人一人にとって最も適した学びの実現を図ることが肝要と考えている。

スライド番号7番を御覧いただきたい。AI型教材の導入は、我々にとって授業改善の機会と捉えている。知識のインプットをデジタルで支え、アウトプットや対話を通じて協働的に学びを深めるハイブリッドな学びを目指す。

スライド番号8番から13番を御覧いただきたい。これは、各学校のAI型教材を活用した授業等の事例である。各校でのAI型教材とノートの併用について、保護者に発信していただきたいとお願いしているところである。

スライド番号14番を御覧いただきたい。AI型教材には利点がある一方で、紙に書く機会の減少や保護者の学習状況の可視化への懸念、効果的な活用方法やデジタルによる学習評価への不安、さらには端末操作への習熟状況の個人差など、課題があることも認識している。

スライド番号15番を御覧いただきたい。これらの課題に対応するために、教育委員会、副教材在り方検討委員会、各学校が相互に連携して取り組んでいきたい。

スライド番号16番を御覧いただきたい。今後の取組として、まず、7月上旬に教員・保護者・児童生徒それぞれにアンケートを実施する予定であり、7月17日には第2回副教材在り方検討委員会を開催予定である。各作業部会からの報告を受け、児童生徒の学びの質の向上につながるよう、2学期のスタートからより良い運営に向けて引き続き取り組んでまいりたい。

以上がAI型教材導入に関する取組状況についてである、と概要を説明。

竹谷委員

先日、いろいろと御質問をさせていただき、教育委員会もハイブリッドな形が望ましいと考えているということで、これを進めているのだと思う。AI型教材を否定する方は意外と少ないが、ただしバランスが重要で、全てがAI型教材でいいのかということが今回の一番のポイントになるところだと思う。今、保護者の方や習志野市PTA連絡協議会の方を含めて、実際に使っているとやはり使いにくいところがあるということと、教育委員会が進める啓蒙活動にずれが生じているようなので、これをいかにしっかりと、お互い良くないところは直していこう、良いところはもっと使っていこうというような形になれるかが最も重要なことだと思っている。

そういう意味で考えると、7月の副教材在り方検討委員会はこれでいいことだと思うのでぜひやっていただきたいが、もう少し密に、学校まで行くかどうか別としても、多くのPTAの方と接して、生の声をどんどん吸い上げて、また、校長先生経由でというのが教育委員会のやり方かもしれないが、学校の先生方の生の声を吸い上げていく、本当に悪いところを直していくようにしないと、やはり使い勝手が良いかどうかはなかなか分からない。ぜひそこをしっかりとやっていただき、両立はここまでの限界だということが見えてくれば良いと思うし、それで保護者も納得すると思う。ぜひそういう時間を取っていただき、よりよい活用をしていただければと思う、と要望。

田中学習指導課長

私どもも竹谷委員と同じように考えている。頂いた御意見を参考に今後の方向性を検討していきたい、と回答。

鎌田委員

竹谷委員も言われたように、書くということは必ず残していただきたい。個人的には、書くことでかなり頭に入るということは確かにあると思うので、書くことを必ず残していただきたい。

また、AI型教材は教材専門であって、ネット環境であまり変なところに繋がらないようにしてもらいたい。

そして、最後に、こどもたちは、こういうAI型教材をとて上手に使えると思うが、問題は、指導する立場だと思っている。若い先生は上手に使わせることができるかもしれないけれども、年配の先生は上手く指導できずに上手に使わせることができないということもあると思う。私もそれなりに年を取り、苦手に感じる面がある。その辺りの指導する立場の方へ教育をしっかりとっていただかないといけない。最低限の指導力は担保してほしいと思っている、と要望。

馬場委員

私自身は、このAI型教材には、非常に賛成の立場である。いろいろ御意見はあるかと思うが、今鎌田委員もおっしゃったとおり、こどもは習熟が早く、大人が考えている以上に慣れは早い。学校訪問などで見ていると、さくさくを使いこなしている様子は本当に感心するところである。

実際に使うこどもたちの意見も大事だが——また意見にもあった教える立場の先生も大事だが、あとは、どういうふうに学習を進めているのかという情報がわからない保護者が一番不安である。

何においても情報伝達が大事で、こどもたちの習熟度なども大事ではあるが、その保護者に対しての丁寧な説明がこの件においても非常に大事だと思う。そこが一番かなと思うので、そこをお願いしたい、と要望。

小熊教育長

スタート時にやはり課題となっていたタッチペンについて、現状どういうふうに改善を図っているのか、補足説明をしていただきたい、と質問。

青野総合教育センター

タッチペンにつきましては、保護者やこどもたちから使いづらいという意見があり、いろいろ検証させていただいた。

まず、今あるものについては、先が丸まっていてゴム状だということで、太くて、軽いため書きづらいという意見があった。その他、保護者などいろいろ御意見をいただきながら、いくつか検証してみた。

まず鉛筆型の持ち手のタッチペンも推奨されたが、先が丸まっているということや、手をつくときと反応してしまうということ、あとは一番先の部分が外れて壊れてしまうのではないかと耐久性への不安という意見があった。また、電磁式のタッチペンについては、手で反応しないという点はあるが、電磁式は1本当たり約4,000円するので紛失した場合の保護者負担が課題であるということがあった。

こういった点を踏まえると、書きやすさや、持ちやすさ、また紛失した場合の対応や耐久性、全てが完璧にそろっているというタッチペンというのは、なかなか難しいのかなと思っている。そういった中で、保護者やPTAの代表と話し合いながら、タッチペンについて最終的にはこのままにするのか、もしくは購入するのかということも踏まえて考えていきたい、と回答。

小熊教育長が他に質疑なしと認め、報告事項(3)は終了した。

報告事項(4) 菊田公民館の今後について

(社会教育課)

河栗社会教育課長

報告事項(4)「菊田公民館の今後について」、説明する。

菊田公民館は、本市が策定した公共施設等総合管理計画および生涯学習施設改修整備計画に基づき、令和14年3月末をもって閉館する方針となっている。それに伴い、現在公民館で実施

している講座や、団体、サークルの皆様の活動を、どのように継続・移行していくかについて、検討を進めている。

菊田公民館の機能の移転先として、2つの施設を想定している。1ページの地図を御覧いただきたい。1つ目は、津田沼幼稚園である。津田沼幼稚園は、令和9年度末をもって藤崎こども園に統合される予定であり、現在は放課後児童会が教室を一部利用しているが、今後は菊田公民館の代替施設としても跡地施設を活用させていただきたいと思っている。なお、津田沼幼稚園は、菊田公民館から約240メートルの距離にある。2つ目は、習志野市旧庁舎跡地活用事業による施設である。旧庁舎跡地にはスーパーマーケットのベルクが建設され、その建物内に約200平方メートルの公共施設が併設される予定である。こちらは菊田公民館から約600mの距離にある。

次に、菊田公民館で行われている活動別の検討状況について説明する。1ページの「1. 団体・サークル活動」については、①の津田沼幼稚園跡施設では、主に講堂や調理室以外の各部屋での活動をカバーし、②の旧庁舎跡地多目的スペースでは、菊田公民館の講堂での活動等をカバーすることとしている。③課題としては、展示室や調理室の代替機能、陶芸窯や点字道具の移設があると認識している。2ページを御覧いただきたい。「2. 学習圏会議の活動」について、学習圏会議は、地域の特色を生かした生涯学習を推進するため市内各公民館に設置しているもので、詳細は、丸囲みをした箇所に記載のとおりである。菊田公民館の学習圏会議については、菊田かるた大会は津田沼幼稚園跡地へ、森の音楽会は現状どおり藤崎小学校体育館での開催を予定している。「3. 講座・行事」などは、公民館の主催する講座や行事などで、記載のとおり、津田沼幼稚園跡地や旧庁舎跡地だけではなく、市役所や学校施設も活用することを予定している。最後に「4. 菊田公民館サークル連絡協議会(令和8年5月23日開催)での質疑」について、総会において、今説明したものと同内容を説明し、頂いた御質問は記載のとおりである。

この検討状況については、地域の皆様の学びと交流の場を絶やさないことを第一に考えている。今後も、皆様からの御意見を賜りながら、より良い環境を整えていきたい、と概要を説明。

小熊教育長が質疑なしと認め、報告事項(4)は終了した。

議案第27号 習志野市教育委員会が行う聴聞及び弁明の機会の付与に関する規則の一部を改正する規則の制定について (教育総務課)

西川学校教育部主幹

議案第27号「習志野市教育委員会が行う聴聞及び弁明の機会の付与に関する規則の一部を改正する規則の制定について」、説明する。

表紙の下部、提案理由を御覧いただきたい。法律等の改正により、聴聞や弁明の機会の付与に関する通知を公示送達する際の手続がデジタル化されたことに伴い、必要な見直しを行うものである。なお、公示送達とは、相手方の住所や居所が不明で郵便が届かない場合に、相手方の氏名などを市役所に2週間掲示することで、法律上は通知が届いたものとみなすことができる手続である。

議案書の5ページを御覧いただきたい。これはこれまでの公示通知書である。アンダーラインの箇所にある聴聞の件名や御本人の住所といった記載を削除することとする。今回の公示送達のデジタル化により、ホームページをきっかけに、市役所で掲示しているこの通知書が多くの人目に触れる可能性が高まることから、本人のプライバシーに配慮した見直しを行うものである。

6ページ御覧いただきたい。これが改正後の公示通知書である。市役所に掲示する通知書の記載内容は御本人の名前や聴聞の開催日時と場所、担当部署に限定し、市長部局の取扱いと揃えている。

このほか、所要の文言整理を行う。施行日は、公布の日からとしている、と概要を説明。

小熊教育長が質疑なしと認め、採決の結果、議案第27号は全員賛成で原案どおり可決された。

協議第1号 習志野高等学校魅力度向上に関するアンケートの実施について（学校教育課）

奥秋学校教育課長

協議第1号「習志野高等学校魅力度向上に関するアンケートの実施について」、説明する。

現在検討を進めている、習志野高校魅力向上プロジェクトの一環として実施する学校の魅力化に関するアンケートである。令和8年習志野市議会第2回定例会でも習志野高校の魅力向上について言及がされ、その中で、具体的な内容としてアンケート調査を行い、魅力向上に向けてのデータ収集も提案された。

このアンケートの目的は、生徒が日頃感じている本音を吸い上げ、今後の習志野高校の魅力向上の方向性を示す、判断の材料にすることである。単なる満足度調査にとどまらず、現在検討されている具体的な施策について、当事者である生徒がどう受けとめるかを把握するために、設計している。

まず、生徒向けアンケート案を御覧いただきたい。設問1から4では、現状の強みと課題を洗い出したいと考えている。生徒が日常で感じている自慢ポイントと入学前後のギャップや不満点を明確にしたいと考え、設定した。これにより、今後の広報で打ち出すべき正しい魅力と、優先的に解決すべき改善の優先順位を特定したいと考えている。設問5から7では、制服改革へのニーズ調査を考えている。前回の教育委員会会議で御説明した学校満足度の向上、通いたい学校づくりにつながるものである。近年、多くの高校で導入が進んでいるジェンダーレス制服や機能性向上について、生徒のニーズを図りたいと考えている。モデルチェンジや選択制の導入が生徒の満足度や受験生へのアピールにつながるかを検証していく。設問8から10では、外部教育資源の活用等部活動について把握したいと考えている。進学実績の向上、成果が見える学校づくりにつながるものである。放課後の外部講師による補習に対する生徒の参加意向やニーズを調査したいと考えている。また、部活動についての調査は、現在の習志野高校の強みである部活動への思いを把握するとともに、進学先拡大にもつながるとされる新たな部活動への関心も合わせて確認したいと考えている。最後に、設問13及び14では、自由記述として、施設への要望や学校生活全般への意見を広く集めたいと考えている。

次に、保護者アンケートのねらいについて御説明する。設問1と2は、現状把握と強みの再検証である。期待度と満足度のギャップの数値化を行い、入学前の期待に対して現在の満足度が落ち込んでいる項目があれば、そこに原因があると考えたい。これらを特定し具体的な改善へつなげたいと思っている。設問3と4については、新規施策の需要調査である。放課後の進学、学習サポート講座の導入に向けた需要の予測となる。外部と連携した講座への関心があるか、保護者のニーズや実効性を事前に把握するための調査を行いたい。設問5は、未来への提言、アイデア収集である。学校では気づけない地域や保護者の目線での、今の習志野高校に足りないものや新しい魅力の種をすくい上げ、今後の学校改革のヒントとしたい。

なお、今回のアンケートの対象者は、習志野高校の1年生から3年生及びその保護者となっている。当初は中学生へのアンケートも検討したが、中学生の実態として習志野高校についての明確なイメージを思っているわけではないこと、そして、市立高校とはいえ、特定の高校についてのアンケートを取ることは必ずしも好意的に捉えていただける方ばかりではない中で公平性の観点から疑義が生じる可能性があることから、今回は対象から外している。また、地域の方についても

どの範囲までアンケートを取るかの判断が難しいと考えている。まずは、実際に通学している生徒と保護者という内部の率直な声を聞くことが、習志野高校自身で魅力を上げていく方向性を検討する上で必要な調査であると考えた。

アンケート実施に向けて質問内容の過不足や文言について、御意見をいただきたい、と概要を説明。

高橋委員

習志野高校に関する危機意識、これでいいのかというところからまずはやっ払いこうということ考えていて、そこは大変素晴らしいと思うが、習志野高校をどうしていこうかという戦略がまずはあるのではないかと私は思うが、全体を見てもそういうものがあまり見えずに、何か制服を変えて何とかなるかとか、外部の先生に勉強を教えてもらったら魅力が増すのではないかと、本質的に習志野高校をどうしようというところ、まず自分たちで考えてアイデア出すというところが、どうも寂しい感じがしている。

例えば、良いことか悪いことかは別にして、高校でとても注目を受けるのは、大学への進学とか就職とかといったことだと思うが、そういうものが質問事項にはあまりないし、これもいいかどうかは別にしても、例えば進学クラスを作ったらどうかということは考えないのだろうかと思った。話として、制服とか、外部講師とか、部活動とかという何だか小さい話になっていて、そこが非常に心配になった。

次に、実際に聞く質問の整理というところで、例えばどんな制服にするかとか、学校外から講師が来たら受講するかとかといった質問は、決まってから生徒に聞けばいい話であって、その辺りの質問と、高校をどうしていこうかっていうところとのバランスがとても悪いのではないかと。

どういう学校にしていこうかが魅力的なのかということは、もっと聞けるのではないかと。そういう面では、高校を選ぶに当たって親の選択はやはり大きいと思うが、その親に対して質問事項が非常に少ない。例えば、習志野高校のカリキュラムあるいはクラス——先ほど言った進学クラスもあるかもしれないが——について、大学進学ということに関してもっと力を入れるのはどうかといったことが何か聞けていない感じがする。学校行事に関しても、どんな行事が魅力的なのかなど、もっと聞くことがあると思う。

制服を変えたらいいのではないかと、学校の先生が大事であるのに外部から講師を呼んだら勉強もできるのではないかなど、どうも私はポイントがずれているような印象を受けたがいかが、と質問。

小熊教育長

今回の協議は、アンケートをより良くするためのたたき台であるため、教育委員からいろいろな意見を言っていただきたいと思っている。事務局は、取り入れられるかどうかという観点で、答えていただきたい、と発言。

奥秋学校教育課長

魅力を上げるという本質の部分については、我々とともに学校の方でも連携して考えていかなければならない内容だと思っている。

先ほどお話にあった、例えば特設課等々の設置などについては、学校でもいろいろ考えているところもあると思うが、今、こちらではお答えできない部分である。

学校経営の部分と、外部から少しでも力になればという委員会側の思いをすり合わせた形でアンケートということであったので、御指摘のような本質からずれているのではないかと捉え方をされてしまったのだと思っている。その辺りについては、精査をしていきたい、と回答。

高橋委員

分からないので私が言いすぎている部分もあると思うが、入学させてよかったと感じる点はどこかと保護者に聞いたときに、やはり進路指導が当然大きくなると思うが、そこに関してあまり質問していないのはどういうことなのか、少なくともその点を教えていただきたい、と質問。

奥秋学校教育課長

そこについては特に大意はなく、我々のほうで足りなかった部分だと思う。

ただ、部活動の部分については、習志野高校の強みだとは思っているのですが、意見を聞きたかったというところであった。また、進路については、本来、教員がやっていくべきところではないのかという点と、加えて、進学に向けて外からお手伝いできることはないのかという考えから、今回外部講師を検討し、それが受け入れられるかどうかということを知りたかったというアンケートであった。再度検討したい、と回答。

高橋委員

何度も申し訳ない。外部ももちろんあっていいと思うが、高校では、例えば大学進学を希望する生徒に対して夏休みに講座を開くということを既に行っているか、と質問。

奥秋学校教育課長

実施している、と回答。

高橋委員

そうだとすると、外部の前に、そういうことについての満足度調査をやって欲しい。学校は進学に対する支援をどういうふうに行っているかというところがすごく問われているのではないかと——もしかしたら1年生や2年生にはピンとこないのかもしれないし、限界があるとは思いますが。

部活動が活発だからと思って習志野高校に入った生徒さんは部活動を高く評価されているだろうし、それを聞いて「やった。」と思ったところで、今の習志野高校は変わらないのではないかと。そういう状況だから、かえって他の人が避けているのかもしれないということはあるので、部活がとてもいいと中にいる生徒が言っても、どうにもならないと私は思う、と発言。

馬場委員

私も、このアンケートには、ちょっとどうなのかなと思ったところがある。

中の人たちの意見を聞くというのは、学校評価と同じかなというふうに思っている。私も習志野高校のPTAをやっていたので、学校評価の内容について当時の学校評議会などで意見交換などもやってきたが、まず、学校評価に目を通すことからやってもいいのかなと思った。

それと、高橋委員がおっしゃっていた、制服や外部資源というところにばかり目が行っているという点は、まさに私もそう思っている。習志野高校を選ぶに当たってのきっかけにはなるかもしれないが、真の意味で魅力がアップするののかというところについては、もう少し考える必要があると思う。余談にはなるが、制服に関して、私の子たちが通っていたときは制服に対して割と誇りもあって、今まで先輩たちがずっと着てきた制服を今私たちも身につけているのだと思っている生徒も少なからずいた。制服変えることや、外部の講師を入れるというのは、短絡的とまでは言わないが、何か簡単に考えていると思う。

高橋委員のおっしゃったように、中のことをもう少し精査するといったことが必要かと思う。アンケートを取ることを全く否定するものではないが、もし取るのであれば、もう少し内容を精査したほうがいいと思う、と要望。

鎌田委員

2点ほどある。魅力的だと思って入った内部にいる人たちにそのギャップを調べるのは非常にいいことだと思うし、入ってよかったと思ったことをアンケートで聞いて発信するのも非常にいいと思う。しかしながら、選ばれるのは、外部にいる中学生からである。これがあれば習志野高校に志願したいというところを皆さんがどう考えているのかというのを、何とかして聞きたい。市立の中学生に無理だとはおっしゃったが、何とかしてその意見を聞ければいいかなと思っている。それが1点である。

もう1点は、このアンケート自体は教育委員会で提示しているが、先ほどから気になったのは、習志野高校にこれをやってくれと無理には言えないのかということである。習志野高校を良くすること自体は、本当は習志野高校の先生たち職員が主眼となって考えるべきことで、習志野高校の職員の方々が危機感を持って、どういうものが必要であるかを聞くアンケートを、実は主体的に中でやっているのか、やっていないから教育委員会が発破をかけているのか。両者にどういう立場の差があるのか分からないので教えていただきたい、と質問。

奥秋学校教育課長

当然に、習志野高校の職員も、この倍率等々に関しては危機感を持っていただいていると認識している。そのためには具体的にどういうことをしなければならないかということも、学校では検討していただいているところである。

あわせて、我々として外部から何ができるかを考えたときの、その意思決定を後押しするためのアンケートとして最初は作っていたことから、皆さんがおっしゃる浅いものになってしまったのだろうと反省しているところである。本質的な部分をもう少し取り入れて、魅力アップにつなげられるようにしていきたい、と回答。

鎌田委員

では、内部の方々はどういうことで向上していくという方針を持っているか否かを把握しているか、と質問。

奥秋学校教育課長。

今、内部の方にやっていただいているのは、具体的な教育活動もそうだが、例えば広報の仕方であるとか、入学説明会の持ち方であるとか、そういったものをいかにアピールしていくかということについて検討を重ねて、進めていただいているところである、と回答。

鎌田委員

順番として、習志野高校の内部の人が主体なのであれば、まずそこで揉んでいただき、教育委員会にこれはどうかと上げてもらうのもいいのかと思った、と発言。

竹谷委員

こちらのアンケートは、先日、私が制服を取り替えたほうがいいのではないかなど、いろいろと申しあげたので、そういうものが盛り込まれているのかという感じはしているが、先ほどからお話が出ているように、実際に学校を選ぶ人のアンケートではなく、満足度調査のような形になっていて、果たしてこれで学校が変われるのかというのは、正直なところ、他の委員の皆さんと同じである。

その上で、先ほどから、どんな方向に学校を持っていったらいいのか、内容が何となくぶれているのではないのかという話が出ていたが、私もやはりそこはすごく重要だと思う——もちろん制服の話はしたが、ただ根本は習志野高校が周りから選ばれることで、選ばれるということはどういう

ことかといえば、どうしてもこの学校に行きたい、行かせたらこういう未来が待っている、そういうことだと思う。では、どういう未来を予想するのが一番いいのかというのは、正直誰も分からない。戦争が当たり前のように起こって、世の中が読みにくくなっている中で、AIも台頭している。私は学力だけがあっても、決して、社会で通用する人間になるとは思っていない。事業をやっている人間からすると、「ものすごく勉強のできる応用の利かない人」と「勉強はそんなにできないけれどもものすごい応用の利く人」のうち、どちら取りますかと聞かれたときに、私は後者のほうの人を取りたいと思うし、私の仲間でも同じようなことを考えている人がたくさんいる。学力は別に否定しないが、そういったときに習志野高校がどこを目指すのかということを、習志野市はちゃんと検討していかなければならないと思う。

私は、前にもお話したかもしれないが、どちらかというと世の中を切り開く力を持っている人を育てたいと思っていて、そういう中で重要なものが、例えばスポーツであったり、英語教育であったり、音楽であったり、習志野高校を卒業すると学習では体験できないような様々な体験ができて、いろいろな引き出しを持って、その多くの引き出しを使いながら上手に世の中を渡り歩ける人になれる、そういう学校をまずは目指したらいいのではないかなと思っている。先日は、そういう意味で申し上げて、その中で例えとして制服やアメフトの話をした。正直何が正しいのかは分からないが、そういう学校を目指したときに、そこに行き当たるであろう「その方法」みたいなものをみんなで考え、出していけば、きっといい学校になれるのではないかなと思っている。

こういう意見を頂く対象も学校内ではなく、外部の中学生にして、あなたが高校を選ぶときどういうことを、一番の主にして選びますかというような質問してもいいと思う。さらに、どういうふうにしたら、これからの時代に認められる人間を輩出できる高校になれるのかということを、専門の人なり、地域の人でも構わないが、そういう人を入れて本気で考えていかないと実際には変わらないと思う。

ぜひ、我々も頑張りたいと思っているので、それを一緒にやっていけたらありがたいと思うし、それがないと、習志野市自体も、この先だんだん元気がなくなってしまうのではないかと心配をしているので、ぜひよろしくお願いいたします、と要望。

高橋委員

このテーマから外れるかもしれないが、アンケートの中にアメリカンフットボールというのがあったので、一つ要望したい。

高校生のアメリカンフットボール部というのは、東京、神奈川、埼玉辺りには50校以上あったと思う。しかし、千葉では、おそらく3校であったかと思う。日本一を狙っているオービックスーガーズがある習志野市においてアメフト部がないというのは、生徒がやりたがらなければ仕方ないが、どういうものかなと思ったので、申し訳ないが言わせていただいた、と発言。

小熊教育長

今、いろいろな意見が出たので、アンケートのことを含めて、今後どういう方向でこの問題に対応していくのかということについて、日程的なことを補足して説明をしていただきたい、と質問。

奥秋学校教育課長

当初の予定では、こちらで御審議いただいた後、7月にアンケートを行って、その分析を8月に行えればと思っていた。8月は入学者説明会等々もあるので、その中での対応にも少し反映していければと思っていた。

制服については、業者と日程について、もし実施するのであればという確認をしているが、どうしても1年以上はかかるということなので、もし、ある程度の方向性が示せたなら、来年度の70周年の記念行事とうまくコラボをして、生徒が選んでいくような形で進めていければと考えていた。

その計画も、もう一度見直して進めていきたいと思う、と回答。

小熊教育長

教育委員会が主体になって学校と魅力度を向上するための委員会があるが、これの日程を確認したい、と質問。

奥秋学校教育課長

7月2日に、習志野高校に行き、魅力ある学校づくり協議会を行い、習志野高校からの提案を受けて、方向性を見だしていくという会議を予定している、と回答。

小熊教育長

7月頭にそういう会議があるので、その前に教育委員の皆さんの御意見を聞きたいということで、今日は設けさせていただいた。

貴重な御意見いただいた。戦略という言葉もあったが、特に、どういう学校にしていきたいのかという辺りに関しては、教育委員会と学校それぞれが、もう少し詰めていかなければならないと、私は感じた。7月の上旬までにその辺を詰めていくということが一つある。

もう一つは、アンケートの内容についても、それに伴って、何が必要なのかというのが出てくると思っている。今回は学校・生徒を中心にということであったが、選ぶ側がどういう意識を持っているのかということも必要ではないかという意見も出たので、再検討して、よりよいものにしていきたいと思う。

事務局もそういう形で進めていくということをお願いしたい、と発言。

小熊教育長が他に質疑なしと認め、協議第1号は終了した。

<報告事項(5)及び議案第28号については非公開>

報告事項(5) いじめ重大事態の発生について

(児童生徒指導課)

報告事項(5)は終了した。

議案第28号 習志野市教育委員会6級以上の職員の任免について

(教育総務課)

大竹学校教育部次長

議案第28号「習志野市教育委員会6級以上の職員の任免について」、概要を説明。

採決の結果、議案第28号は原案どおり可決された。

その他

その他は終了した。

小熊教育長

令和8年習志野市教育委員会第6回定例会の閉会を宣言